

平成22年1月

渡邊彩子 学位論文審査要旨

主査 汐田剛史
副主査 池口正英
同 原田省

主論文

The role of survivin in the resistance of endometriotic stromal cells to drug-induced apoptosis

(子宮内膜症間質細胞の薬剤誘導性アポトーシス抵抗性におけるサバイビンの役割)

(著者：渡邊彩子、谷口文紀、伊澤正郎、周防加奈、上垣崇、高井絵理、寺川直樹、原田省)

平成21年 Human Reproduction 24巻 3172頁～3179頁

審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、子宮内膜症間質細胞における薬剤誘導性アポトーシス抵抗性へのサバイビンの関与について検討した論文である。正所性子宮内膜間質細胞ではサバイビン遺伝子発現は低かったが、異所性子宮内膜間質細胞においては高発現を示した。SS添加後のサバイビン遺伝子発現は、正所性子宮内膜間質細胞では減弱し、異所性子宮内膜間質細胞では増強を認めた。異所性子宮内膜間質細胞におけるサバイビン遺伝子抑制により薬剤誘導性アポトーシスへの抵抗性が減弱した。これらは子宮内膜症の病態に、サバイビンが重要な役割を担うことを示唆するものである。

本研究は新知見に富むものであり、その成果は生殖内分泌学研究に貢献するとともに、学術の水準を高めたものと認める。